

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	広義・原発開放隅角緑内障の中心窩閾値と矯正視力、傍中心窩視野感度閾値の相関に関する研究
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2013年から1月から2025年12月までの間に当院にて視野検査を施行された緑内障
③ 概要	視力検査は眼科における最も一般的な検査の一つです。緑内障患者さんの視力は末期まで保たれる場合が多いですが、視野欠損の存在する領域によっては、緑内障の初期から視力低下が生じる場合もあります。本研究では視野検査の際に測定する中心窩閾値（視野中心部分の視野感度）や中心付近の視野感度と視力の関連を調べ、どのような障害を持つ患者さんがどのような過程を経て視力が低下していくのかを明らかにし、日常診療に役立てたいと考えています。
③ 申請番号	2016-0052
④ 研究の目的・意義	視力は生活の質や視覚の質にとって最も重要な視機能のひとつで、緑内障においても疾患の進行に伴って視力低下をきたします。緑内障は視神経が障害され、その領域に応じた視野閾値感度が低下する疾患であり、緑内障による視力低下は視神経障害および視野障害が進行することによって生じます。どのような障害を持つ症例がどのような過程を経て視力が低下していくのかについては明らかにされていません。これらの問題は緑内障患者の生活・視覚の質を守るという、緑内障治療の本来の目的から、重要な意味を持っています。本研究では広義・原発開放隅角緑内障における視力低下と視野障害の関連について検討します。
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から2026年3月31日まで
⑦ 情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	使用するデータは、個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。他の機関へ情報を提供することはありません。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公開されることはありません。
⑧ 利用または提供する情報の項目	診療記録、視力検査結果、光干渉断層撮影検査、視野検査
⑨ 利用する者の範囲	新潟大学 眼科
⑩ 試料・情報の管理について責任を有する者	本学：新潟大学 眼科 准教授 赤木忠道

⑪お問い合わせ先	所属：新潟大学医学部眼科学分野 氏名：飯川 龍 Tel：025-227-2296 E-mail： arasan@med.niigata-u.ac.jp
----------	--